

凡 例

要地方言の活用体系を共通の枠組みによって記述する。記述の枠組みは、概説編「活用体系の地理的変異と記述の枠組み」（小西いずみ）による。本編の各項目の記述は、以下の構成をとる。

地域概説

府県単位の方言区画図をあげ、【 府/県の方言区画】と【 方言について】において記述対象方言の方言区画上の位置づけを示す。当該方言の音声的な特徴にもとづき特殊な表記を行う場合には、【表記について】に記載する。当該方言の記述のデータソース（話者情報、用例の出典等）については、【調査概要】に記載する。

活用表

《動詞》の活用表は、a類動詞（五段動詞）として「書く」、b類動詞（一段動詞）として「見る」、変格活用動詞の「来る」と「する」を代表語とし、それぞれの活用形をあげる。共通に取り上げる活用形は、以下のものである。

終止類 … 断定非過去形、断定過去形、命令形、禁止形、意志形、推量形

接続類 … 連体非過去形、連体過去形、中止形、仮定形

派生類 … 否定形、丁寧形、使役形、受身形、可能形、尊敬形、継続形、希望形、のだ形

《動詞》活用形の表のあとに、「a類動詞の基幹音便形」の表を付す。これはいわゆる五段動詞の音便形（タ・テに接続する形）の作り方を示した表である。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》の活用表は、形容詞「赤い」、形容名詞述語（いわゆる形容動詞）「静か（だ）」、名詞述語「学生（だ）」を代表語とし、それぞれの活用形をあげる。共通に取り上げる活用形は、以下のものである。

終止類 … 断定非過去形、断定過去形、推量形

接続類 … 連体非過去形、連体過去形、中止形、仮定形

派生類 … 否定形、なる形、丁寧形、のだ形

代表語は、依拠する資料やその方言の特徴により、他の語に替える場合がある。また、上記の共通項目以外に、当該方言において特徴的な活用形がある場合は、該当する類の欄に追加する（秋田県本荘方言の動詞派生類の「自発形」など）。上記の共通項目において、当該方言に対応する形式がない場合は、表中に「（該当形 欠）」と記入する。稀な形式には を付す。異なる語による代替形がある場合は《 》内に記載する。

解説

以下の構成で記述する。

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

(2) 各活用形の特徴

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

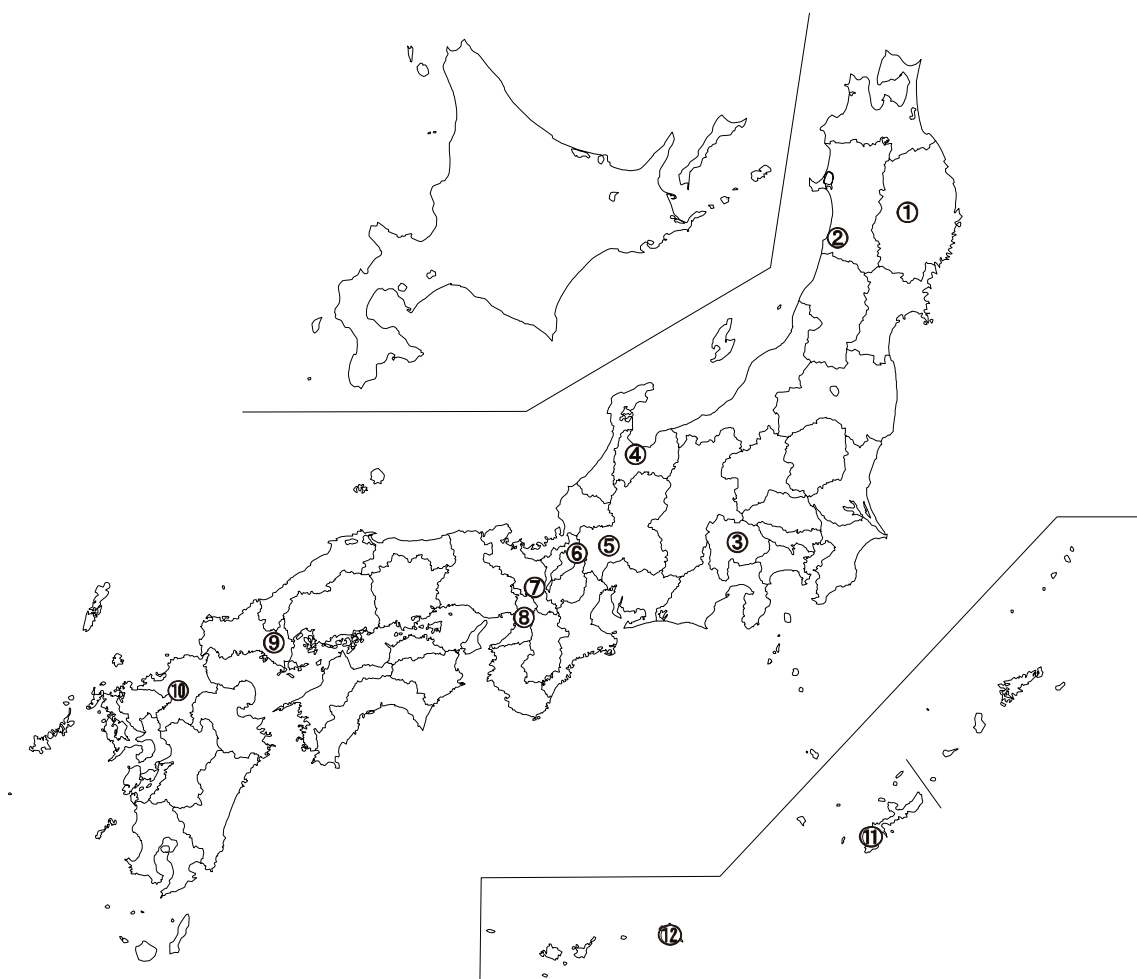
【形容詞】

【形容名詞述語・名詞述語】

用例出典・参考文献

用例出典には、解説文中で引用した用例の出典を略称とともにあげる。解説文中では出典は略称で示す。参考文献には、記述の際に参考にした文献をあげる。地域概説に掲載する方言区画図は、今回新たに作図したものであるが、本文中に特定の資料名を記載していない場合も、参考文献にあげる先行資料を総合的に参照して作図したものである。

要地方言位置図



岩手県盛岡市方言
 富山県富山市方言
 京都府京都市方言
 福岡県福岡市方言

秋田県由利本荘市本荘方言
 岐阜県岐阜市方言
 大阪府方言
 沖縄県那覇市首里方言

山梨県甲府市方言
 滋賀県長浜市方言
 山口県東周防方言
 沖縄県宮古島市平良下里方言